

第4問

次の【問題文Ⅰ】の詩と【問題文Ⅱ】の文章は、いずれも馬車を操縦する「御術」について書かれたものである。これらを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。

なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

【問題文Ⅰ】

吾_ニ有_リ千_ニ里_、馬_一

毛_(注1)骨₍₁₎何_、蕭_(注2)森_{タル}

疾_{ハヤク}馳_{ハスレバ}如_ク二_ニ奔_、風_一

白_ニ日_ニ無_シレ_レ留_{ムル}レ_レ陰_ヲ

徐_{おもむ}驅_{カクレバ}当_{タリ}三_ニ大_ニ道_一

步_(注3)驟_{しうハ}中_{あた}二_ニ五_ニ音_一

A
馬_ニ雖_レ有_ニ四_ニ足_一 遲_ハ速_リ在_ニ吾_ガ X

六りく轡ひ八ハ
応シ二
吾ガ
手ニ

東 西ト
与ニ南 北

B
惟 意 所 欲 適

至(3)哉レル
人ト与レ馬

伯(注8)樂ハ
識シル二 其ノ
外ヲ

王 良ハ
得タリ二 其ノ
性ヲ

良 馬ハ
須マツ二 善(注9)
馭ギョ一ヲ

調 和スル
如コト二 瑟シツ
琴(注6)

高コ下ス
山ト与レ林

九(注7)州
可シ二 周(2)
尋ヌ

兩 樂 不 二 相 侵サ

徒(ア)知ル二 価ノ
千 金ナル一ヲ

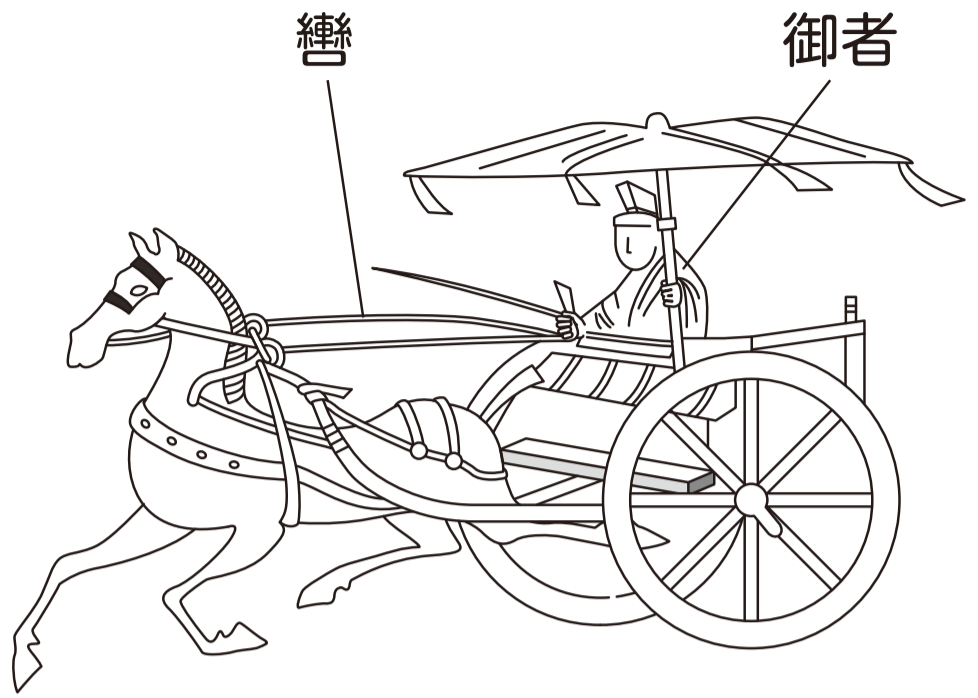
此 術(イ)
固ク已 二 深シ

吾ガ言 可シレ 為スレ 箴シント
(注10)

〔歐陽脩「歐陽文忠公集」による〕

(注)

- 1 毛骨——馬の毛なみと骨格。
- 2 蕭森——ひきしまつて美しい。
- 3 步驟——馬が駆ける音。
- 4 五音——中国の伝統的な音階。
- 5 六轡——馬車を操る手綱。
- 6 瑟琴——大きな琴と小さな琴。
- 7 九州——中国全土。
- 8 伯樂——良馬を見抜く名人。
- 9 善馭——すぐれた御者(次ページの図を参照)。馭は御に同じ。
- 10 箴——いましめ。



馬車を走らせる御者

【問題文Ⅱ】

王良は趙国ちゆうこくの襄主じやうしゆに仕える臣であり、「御術」における師でもある。ある日、襄主が王良に馬車の駆け競きやくべを挑み、三回競走して三回とも勝てなかった。くやしがる襄主が、まだ「御術」のすべてを教えていないのではないかと詰め寄ると、王良は次のように答えた。

凡ソ御之所ハ貴ブ馬(a)体ニ安ニ于車ニ人(b)心ニ調ニ于

馬ニ而ル後ニ可シ以テ(c)進ム速シ致ス遠ヲ今君後則欲レ逮レ

臣、先則恐レ逮ニ于臣。夫誘メ道ニ争フ遠キ、非ザ先ニ則チ

後ル也。而シ先ニ後ノ心ハ在リ于ニ臣ニ。尚ホ何ヲ以テ調ハ于ニ馬ニ。

此_レ君之所_ニ以後_ル也。

(『韓非子』による)

問1 波線部(ア)「徒」・(イ)「固」のごごでの意味と、最も近い意味を持つ漢字はどれか。

次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

30

31

。

(イ) ページ

(ア) 「徒」

30

- ⑤ ④ ③ ② ①
猶 好 当 復 只

31 (イ) 71
「固」 ページ
シ

⑤ ④ ③ ② ①
本 絶 必 難 強

問2 波線部(1)「何」・(2)「周」・(3)「至哉」のごとの解釈として最も適当なものを、

次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

34。

32

(70ページ)

(1) 「何」

32

- ① どころが
- ② いつから
- ③ どのように
- ④ どころ
- ⑤ なんと

(71ページ)

(2) 「周」

33

① 手あたり次第に

② 何度も繰り返して

③ あらゆるところに

④ きちんと準備して

⑤ はるか遠くより

(71ページ)

(3) 「至哉」

34

① あのような遠くまで行くことができるものなのか

② こんなにも人の気持ちができるものなのか

③ あのような高い山まで登ることができるだろうか

④ このような境地にまで到達できるものなのか

⑤ こんなにも速く走ることができるだろうか

問3

【問題文Ⅰ】の70ページの傍線部A「馬雖^レ有^二四足^一」遅速在^二吾^一 X

「御術」の要点を述べている。【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえれば、【問題文Ⅰ】

の空欄 X には【問題文Ⅱ】の74ページの二重傍線部(a)～(e)のいずれかが入る。

空欄 X に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選

べ。解答番号は 35。

- ① (a) 体
- ② (b) 心
- ③ (c) 進
- ④ (d) 先
- ⑤ (e) 臣

問4 71ページの傍線部B「惟意所欲適」の返り点の付け方と書き下し文との組合

せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

36

- ① 惟意所欲適
惟^た意の欲して適^{かな}ふ所にして
- ② 惟意所欲適
惟^{おも}だ意ふ所に適^{かな}はんと欲して
- ③ 惟意所欲適
惟^{おも}だ欲する所を意^{おも}ひ適^ゆきて
- ④ 惟意所欲適
惟^ゆだ意の適^ゆかんと欲する所にして
- ⑤ 惟意所欲適
惟^{おも}だ欲して適^ゆく所を意^{おも}ひて

問5 74ページの傍線部C「今君後則欲_レ速_レ臣、先則恐_レ速_二于_一臣。」の解釈とし

て最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

37

- ① あなたは私に後ろにつかれると馬車の操縦に集中するのに、私が前に出るとすぐにやる気を失ってしまいました。
- ② あなたは今回後れても追いつこうとしましたが、以前は私に及ばないのではないかと不安にかられるだけでした。
- ③ あなたはいつも馬車のことを後回しにして、どの馬も私の馬より劣っているのではないかと憂えるばかりでした。
- ④ あなたは後から追い抜くことを考えていましたが、私は最初から追いつかれないように気をつけていました。
- ⑤ あなたは私に後れると追いつくことだけを考え、前に出るといつ追いつかれるかと心配ばかりしていました。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

問6 【問題文Ⅰ】と【問題文Ⅱ】を踏まえた「御術」と御者の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は

①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 38。

① 「御術」においては、馬を手厚く養うだけでなく、よい馬車を選ぶことも大切である。王良のように車の手入れを入念にしなければ、馬を快適に走らせることのできる御者にはなれない。

② 「御術」においては、馬の心のうちをくみとり、馬車を遠くまで走らせることが大切である。王良のように馬の体調を考えながら鍛えなければ、千里の馬を育てる御者にはなれない。

③ 「御術」においては、すぐれた馬を選ぶだけでなく、馬と一体となって走ることにも大切である。襄主のように他のことに気をとられていては、馬を自由に走らせる御者にはなれない。

④ 「御術」においては、馬を厳しく育て、巧みな駆け引きを会得することが大切である。王良のように常に勝負の場を意識しながら馬を育てなければ、競走に勝つことのできる御者にはなれない。

⑤ 「御術」においては、訓練場だけでなく、山と林を駆けまわって手綱さばきを磨くことも大切である。襄主のように型通りの練習をおこなうだけでは、素晴らしい御者にはなれない。